

第12期 第5回 鳥取市校区審議会 議事録

1 日 時 平成26年7月2日（水）13時30分～16時30分

2 会 場 鳥取市役所 第2庁舎 5階第1会議室

3 出席者 【委員】

渡部昭男委員(会長)、岩崎憲一委員(副会長)、渡辺勘治郎委員、片山敬子委員、有本健一委員、吉澤春樹委員、米原隆生委員、神谷正恵委員、有本喜美男委員、横西経雄委員、牛尾柳一郎委員、山本源五郎委員、平尾司砂委員、谷口好宏委員、倉持裕彌アドバイザー

【教育委員会（事務局）】

木村正人次長、神谷康弘次長、梶晶子課長補佐
石上直彦主幹兼指導主事、小谷昇一主幹

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事録署名委員の選任 渡辺委員、片山委員
- 4 職員紹介（平成26年6月1日付け人事異動）
梶晶子課長補佐自己紹介
- 5 報告
 - (1) 第3回校区審議会審議概要について
 - (2) 千代南中学校視察（第4回校区審議会）の概要について
 - (3) 校区審議に関連する活動報告について
 - (4) 文部科学省が提唱する義務教育学校（小中一貫校）について
 - (5) 要望書（福部の教育を考える会）の受理について
 - (6) 要望書（南城北自治会）に対する回答について
 - (7) 6月定例議会での質問と答弁について
- 6 議事
 - (1) 審議方針並びにスケジュールの確認について
 - (2) 検討を要するエリアに対しての検討課題（テーマ）について
 - ・福部中学校（福部小学校を含む）
 - ・鹿野中学校（鹿野小学校を含む）
 - ・江山中学校（神戸小学校、美和小学校を含む）
 - ・南中学校
 - ・千代川以西（城北小学校、大正小学校、世紀小学校）
 - ・中心市街地
 - ・その他のエリア
- 7 その他
- 8 閉 会

5 議事の概要

事務局

お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。ただ今より、第5回校区審議会を開催させていただきます。

本日の審議は、審議の方針並びにスケジュールの確認や検討を要するエリアの検討課題ということで、今後の方向性を決める議論になるかと思えます。どうぞよろしく願いいたします。

なお、6月の人事異動で、事務局職員に異動がありましたので紹介いたします。

事務局

〔自己紹介〕

事務局

本日の出欠ですが、上山委員からご欠席の報告をいただいております。
それでは、渡部会長にご挨拶いただき、進行をお願いしたいと思います。

会 長

皆さんこんにちは。前回の審議会で千代南中の視察と懇談が実現しました。任期中に、更に他の地域にも出掛ける機会が持てればと思っています。今日は、中間まとめに向けて、一つの重要な山だと思っていますので、よろしくお願いします。
それでは、今回の議事録署名委員の選任ですが、順番により渡辺（勘治郎）委員さんと片山委員さん、よろしくお願いします。
さっそく報告事項に入りたいと思います。一括して事務局からお願いします。

事務局

〔報告事項（１）～（７）の説明〕

会 長

どうもありがとうございました。まず千代南中の通学路の安全上の問題ですが、歩道が途切れている県道の一部の箇所については、支所や関係の方をお願いして、用地買収等がスムーズに進むような働き掛けをお願いします。
通学に利用する路線バスダイヤの問題ですが、現行の乗合タクシーの利用が使えるのではと思いますので、速やかに中学校に情報を返して相談してください。もうすぐ夏休みに入ります。ダイヤ変更を待つより前に、現状でできることがあれば、急いだ方がよいと思います。
皆さんの方で、報告事項に関連して何かございますか。無いようでしたら、あとの協議にも関わることが多いので、そちらの方に回したいと思います。

〔「福部の教育を考える会」の方々が入室〕

会 長

それでは、早速ですが「福部の教育を考える会」から提出された要望書に関しまして、会の方々にご出席いただきましたので、お話を伺いたいと思います。福部の会の代表様よりご説明いただけますでしょうか。

福部の会代表

〔報告事項（５）資料１０ページの説明〕

会 長

どうもありがとうございました。関連しまして、幼小中一貫校が現行の制度の中では、どういった対応が可能なのか、或いは、現在の各施設の位置関係や概要はどのようなかといった点を、事務局から説明していただきます。

事務局

〔報告事項（５）資料１１ページの説明〕

事務局

〔参考資料 １～１３ページの説明〕

会 長

ありがとうございました。福部については、本日、要望をお聞きしましたが、素案を検討した上で、９月の審議会で文案を最終的に協議したいと思います。早ければ１０月に福部に係る答申が出せればと思っています。答申後、教育委員会の方で、もう少し細かな詰めをしていただく形で進んでいくのではないかと考えています。
今期の校区審議会は、６つのエリアについて、テーマを定めて審議しようとしています。テーマが定まり地域に投げ掛ける中で、地域から何らかの方向性が出てきたところから、順次答申を出していきたいということです。福部については、要望書をいただいておりますので、そういう形になろうかと思っています。
なお、福部の要望の中に、コミュニティ・スクールという形が出てきました。鳥

取市は、本年度より鳥取版コミュニティ・スクールのパイロット校に3校区を指定し、制度をスタートさせています。従って、福部がコミュニティ・スクールに取り組む点については、何の支障も無いと思っています。

それでは、委員の皆さんから、もう少し踏み込んで聞いてみたいことがあればお願いします。

まず、私からお尋ねです。幼稚園が入って非常に特色ある、幼・小・中10年間の一貫校ということですが、福部は5歳児の年長になると、全員が幼稚園に入るので、ある意味、小学校0学年という意味合いを以前から持っていると同っています。

お聞きしたいのは、年長を小学校舎に移しての一貫校なのか、それとも、現状では園舎は300m離れていますが、現位置での連携が前提なのか、そのあたりのところを少しお話しいただけますでしょうか。

福部の会代表

小学校の方に移っていただく考えです。10年間の一貫校ですから、同じ校舎に入る方向で考えています。

会 長

ありがとうございます。義務教育学校については、来年の通常国会（1～6月）で3月以前に改正法が成立すれば、早ければ平成27年度から制度がスタートすることになると思います。遅れて4月から6月の段階で改正されると、平成28年度からのスタートですので、小中一貫校は改正法で予定されているこの義務教育学校という制度の中でスタートできるのではないかと思います。

ポイントは、幼稚園を付ける形になりますので、①義務教育学校にプラス幼稚園年長というスタイルをとるのか、②教育委員会を通じて文科省と相談し、全国的にユニークな形での10年一貫の仕組みをとるのか、そのあたりは、教育委員会と相談をしていただければと思います。委員の皆さん、他に何かございますか。

委 員

福部が目指す学校の特徴の中に、農業体験、ラッキョウ栽培、ナシ栽培での体験があります。これは、誠に結構なことだと思います。こういう環境で育った子どもは、情操教育でもプラスだと思います。

私が問題として感じるのは、英語教育、理数教育のことです。これは、大人の考え方ではないかと思います。ややもすると詰め込み主義、点数競争になり、子どもたちのランク付けにつながることを危惧します。仮にそうになると、やる気を無くす子どもたちも出てくるのではないかと思います。

むしろ、集団教育に馴染ませるとか、徳育教育を充実させる方がよいのではと思います。英語や理数系は、確かに現代社会では望まれますが、大人の考え方過ぎるのではないのでしょうか。

子どもの立場にすれば、好き嫌いもありますし、一律に画一的な教育をするのは危険で、子どもたちに負担が掛かるのではと思います。せっかく田園地帯にある一貫校なら、もっと伸びやかに、将来伸びてゆく要素を育てることに重点を置かれてはいかがかと思います。

会 長

いくつか質問を先にお伺いしたいと思います。他にございますか。

委 員

渡部会長が言われたように、5歳児を入れて10年一貫教育というのは極めてユニークで、私も勉強するまで知らないテーマでした。義務教育の5歳児前倒しという案が、政府の教育再生実行会議で出てくるような時代ですから、私の方が時代遅れでした。

こうした発想が、福部の地域の皆さんの議論の中で出された気持ちや背景には、相当なウエートがあるのでしょうか。5歳児を加えた一貫校の意見が出された背景などについて、ご存知でしたらお願いしたいと思います。

会 長 伸びやかな教育としっかりとした学力という視点を、どう両立させていくかということと、5歳児を含めた一貫校に至った住民の皆さんの気持ちを、教えていただけますでしょうか。

福部の会代表 最初のご質問は、偏った教育に陥りやすいのではということでございました。私は、学校づくりは最初にきちっとした理想を持ち、学校の方針を持って作っていくことが大事だろうと思っています。

では特徴として、どういう学校を作るのかとなると、やはりグローバル化がどんどん進む中、外国語教育を入れないと、特徴のある学校にならないと考えました。

逆に、落ちこぼれを作るのではという懸念も分からなくはないですが、特徴ある学校を作っていくには、やはり外国語だと思えます。例えば、日常の英会話は誰でもできるような学校を作っていければと思っています。

徳育教育のこともありますが、今考えているのは、例えばお寺の和尚さんとかノウハウを持っている方に、お話を聞いたりすることも考えております。

次に、5歳児をどういう理由で一貫校に入れるのかということですが、中1ギャップと同様に、幼稚園から小学校に入学するときに、ちょっと馴染めないという傾向が福部に限らずあると思えます。そういうことを無くしたいのと、やはり早くから学校に慣れて、勉強をしていくということです。福部の幼稚園は年長だけで、あとは保育園です。幼稚園は文科省ですので、一緒にした方がよいと考えました。

幼稚園の保護者がどれだけ賛成して、どれだけ反対しているかまで把握してはいませんが、幼・小・中の10年間一貫教育ですよと説明をする中で、異論が全く無かったということです。

委 員 先ほどからお話をお伺いして、学校の独自性が打ち出され、特色ある学校づくりを目指した熱い思いを感じます。方向性としても、時代に対応した学校教育が進められるのではないかと思います。

一つお伺いしたいのは、幼児教育についてです。非常に新しい独自性のある考え方で幼・小・中を考えておられますが、幼児教育のカリキュラムについて、何かお考えをお持ちなのかお伺いしたいと思います。

福部の会代表 現在のところ、そこまでは考えが至っていません。10年一貫校が実現するということになるなら、より具体的なカリキュラムを、教育委員会や学校の先生を中心に、我々も一緒になって作っていく必要があると思っています。現在のところ、具体的なものはありません。

会 長 スケジュールの問題ですが、例えば、審議会が10月に福部の答申を出したとしたら、議会との関係はどのようなイメージをお持ちでしょうか。今の段階で結構ですので教えていただけませんか。

事務局 10月に答申を出していただくと、その内容を12月議会の文教経済委員会に報告させていただくことになると思います。さらに幼・小・中の10年一貫校の中身や時期の話がまとまれば、2月議会でも報告していく流れになるのではないかと考えています。

会 長 審議会との関係では、10月で一区切り。その後は、教育委員会や市議会との関係で進んでいくということですね。

ぜひお願いしたいのは、考える会は要望書を出した段階で解散ではなく、コミュニティ・スクールの学校運営協議会に引き継いだり、学校を支える地域応援団とい

う形で継続するなどして、学校と地域の関係が、市内随一の緊密なつながりを持った新しい学校になっていただくことです。

委員 今後、小中一貫校が市内に増えていく場合、兼務できる先生がどれくらいいるのかという点が、問題になってくると思います。更に福部のように幼稚園と小学校が連携すると、そういう配置も考えなければならぬと思います。先生の資格の方が追い付かなくなることはないのでしょうか。

会長 私が承知している部分をお話ししますので、補足があればお願いします。先生は発令のない学校では仕事できませんので、兼務発令をすれば、どちらの学校でも仕事ができるという前提があります。

免許で言えば、幼・小・中で免許が違ってきます。ただし、今でも中学校から交換授業の形で、理科とか数学とか英語を、小学校で教えている例があります。そういう意味合いで小学校の高学年で教科担任制を取り入れて、そこに中学校の先生が教科の免許で臨むというのは、可能ではないかと思えます。

今のところ、義務教育免許といったものを文科省が新たに作るかどうかまでは、よく分からないところです。教育委員会の方からどうでしょうか。

事務局 会長さんの説明内容でよろしいかと思えます。付け加えますと、中学校から小学校の場合は、数学の教員は算数の授業、国語の教員は国語、英語の教員は外国語活動と、自分が入っていく場所は非常によく分かります。そういうところで兼務を出して、やってくださいとなります。

逆に、小学校から中学校の場合、小学校免許だけの先生が、例えば中学校の数学の授業に入るとか、英語の授業に入るとかになりますと、今の免許制度では難しいところです。ただ、例えば総合的な学習の時間に入っていくとか、集会活動の中に入っていくとかなら、考えていける部分もあると思えます。

それから、特例校制度でカリキュラムを変えていくなら、文科省へ確認する必要がありますが、免許の考え方も柔軟になっていくのではないかと思えます。ただし、今のところは、会長さんがおっしゃられたように、中学校の教科の免許によって、小学校の授業をしていく部分の兼務という形で詰めていけるのではないかと思っています。

会長 加えて、小中免許の両方を持っておられる方の数を、データとして出しておくとよいと思いますので、一度調べていただけたらと思います。

ここで休憩に入りたいと思います。福部の皆様どうもありがとうございました。

福部の会代表 最後にお礼を申し上げたいと思います。平成20年からこの検討を始め、今年で7年目を迎えますが、幼・小・中一貫校で、県内では初の学校を作る願いをしているところでございます。校区審議会のご支援をいただき、実現したいと思っております。この要望は、福部の総意ですのでよろしくお願い致します。今日は大変貴重なお時間をいただき、本当にありがとうございました。

(休憩)

会長 それでは、後半の議事に移ります。正副会長会で打ち合わせをしており、私の方で説明をしたいと思います。

まず、今後の審議方針とスケジュールです。第11期からの申し送り事項がございました。大きく修正したのは答申時期です。申し送り事項では、平成26年4月に積み残しの答申を目指していましたが、これは無理だろうということで、時期を、

第12期の任期が終わるまでに変えました。

審議会としては、地域、保護者の意見を集約していく組織づくりを進め、その組織と連携しながら答申を導く考え方で、議論を進めてきました。ただし、エリアで状況が異なりますので、個々のエリアごとに進めていくという意味で、今後の審議方針とスケジュールを確認したいと思います。

今回の審議会を9月に予定しています。ここで、各エリアに係る中間まとめ案を検討しますが、福部については個別に答申案も検討したいと思っています。今後とも地域からの要望書が出されたところから、随時答申を行っていきたいと思います。そして、最終的に任期である平成27年11月に、最終答申が出せればと考えています。

では、エリアごとの一覧表を見ていただきたいと思います。6エリアにその他を加えて7つになっております。

まず福部の課題は、小規模化の問題です。地域としての要望が出されましたので、幼・小・中一貫校が主要な検討課題になります。コミュニティ・スクールもあります。また、一貫校だとしても小規模の問題は残りますので、中学校の小規模校転入制度の導入の検討も加わります。これは、福部以外にも、鹿野中や江山中も同じことが言えます。

2番目の鹿野は、同じく小規模化の問題ですが、検討組織も立ち上がっていますから、この組織との連携が重要になってきます。福部と違うのは、西部地域の中学校間連携の課題が審議会の中で議論されており、これが柱として入ることです。その中には、情報環境の整備の問題も含まれますし、西部地域の中学生が共に学ぶ仮称「気高学」といったものが立ち上がれば面白いのかなという意見も出ております。

3番目の神戸小と美和小を含んだ江山中も、小規模化の問題となります。こちらは、地域の検討組織がまだできていませんから、その立ち上げが課題です。小規模校転入制度については、先ほど福部で申し上げたとおりです。

4番目の南中は、逆に大規模化の問題で、教室数など施設面の不足が指摘されます。この解決策を中間まとめに出すとすれば、①分離新設、②校区割の変更、③他中学校へのバス輸送といった選択肢になるかと思います。

5番目の千代川以西エリアは、通学上の安全面や適正配置の問題です。この地域の校区割は、長い歴史的な経緯もあり、非常に複雑な状況になっています。地域の検討組織の立ち上げの大前提として、まずは地域、保護者、学校など、関係者の学校間連携を進め、相互理解や共通認識を図ることが大切だろうと考えています。

6番目の中心市街地エリアについても、千代川以西エリアと同様な考え方となります。なお、正副会長会議の中で、隣接校同士でのゆるやかな学校選択制の導入という考え方も検討してはという話が出ました。校区を広げた連携制のようなものを置くことで、小学校間の連携を深めていくきっかけができればという思いです。

その他のエリアとして、中学校は適正規模だけど、小学校が小規模というところがいくつかあります。正副会長会議で出ましたのは、明治小校区で「森のようちえん」がスタートしましたが、そういう小規模の特色を生かして、例えば、低学年が幼稚園と一緒にあった「森の小学校」があってもいいのではというアイデアがありましたので、付け加えさせていただきます。事務局で補足はありますか。

事務局 [参考資料 14～35ページの説明]

会長 審議方針については、こんなイメージでよろしいでしょうか。

委員 南中のPTA会長をしているので、勝手にですが、保護者の方に意見を聞いてみました。この参考資料にも「南中学校のクラス増による教室不足見込み」が書いてありますが、保護者が一番危惧しているのは、間違いなくこの点です。

これから検討に入るのでしょうか、すぐにはなかなか決まらないと思います。意見の中には、校長室の建物の上に校舎を増築してはどうかという意見もありましたし、3案に限らず、あらゆる可能性を踏まえて検討という形にさせていただいたらと考えています。

会 長

審議方針やスケジュール、検討課題についてはよろしいでしょうか。南中への対応が急ぐようでしたら、急ぐような形で別途に答申を出した方が有効だと思われます。こういう方向性で進めていきたいと思います。

それでは、まず福部の問題を整理していきたいと思います。要望の中で審議会が扱うのは、学校形態及び学校運営の姿です。大きくは2点です。5歳児の幼を含めた10年間の一貫教育と、コミュニティ・スクールです。ここについて異存がなければ、9月の審議会で、答申案を作っていくしたいと思います。例えば、要望書に対する回答といった形で、答申を作成していくことになると思います。

小学校の方に関わりますけれども、幼・小連携というのは、どのぐらい実績があるのでしょうか。片山委員さんいかがでしょうか。

委 員

小1ギャップと言いますか、保・幼・小の連携で、1年生に入学したときに円滑にスタートできるよう、スタートカリキュラムというものを作っています。学校生活がスムーズにいくように、なだらかな連携に取り組んでいます。

例えば、1年生と年長とが体験的な活動を通して交流する機会は、今の段階でも行われています。ただし距離的な問題もありますし、市街地の小学校のようにいろんな園から入ってくると、1対1での交流が難しくなります。この園からは、ほぼこの小学校に入るとか、2つの小学校に分かれるぐらいでしたら、そういう交流が行われています。

ただ、生活の時間切りが、小学校と幼稚園とは違いますので、それが一貫校で同じ建物に入った時にどうなのかなあとと思います。1年生で入って、いきなり45分間の授業にじっとできるかという、そうではありません。いろいろな工夫はしますが、なかなか時間が掛かったりしています。それが、1年前倒しで入ってきたとき、生活のリズムがどのように同じ学校の中で作れるのかなと思いました。

会 長

今のところでは、小学校の方に年長のクラスという案が出されましたが、議論を進めていった結果、「すなっこ園」の方に残ることになるかも知れません。細部を詰めないといけません、幼・小・中の一貫をやってみたいというのが基本線だということです。

では、柱としては、幼・小・中一貫校と、コミュニティ・スクールを入れた形で答申に盛り込んでいけたらと思っています。

それから、中学校の小規模校転入制度は、要望書には上がっていませんが、どういたしましょうか。議論が進んでいけば、これらにプラスした形で入れることもできますが、事務局の方はいかがでしょうか。前はポジティブに検討していきたいというご報告でしたが、基本方向はよろしいでしょうか。

事務局

はい。

会 長

早ければ、平成27年度からでも、制度が始まると見てもよろしいでしょうか。

事務局

そうですね。まだそこまで申し上げることができませんが、事務局の中で、前向きに検討していきたいということは話しています。さらに内部で詰めていきたいと思っていますのでございます。

- 会 長 答申に入れても問題ないということによろしいですね。
- 委 員 一貫校に幼稚園も入るということですが、福部の子がすべて幼稚園に入っているなら問題ないと思いますが、一般的には幼稚園に行ったり保育園に行ったり、5つも6つもあってばらばらですよ。
- そうすると、一貫校にしてしまうと「他の園には行かれんよ。必ずここに行きなさい」ということになるので、そのあたりが気になりますね。私の地区も、6つの幼稚園や保育園に分かれていて、小学校に入ったら全部集まりますが、福部がもしばらばらだったら強制的になる心配がありますね。
- 会 長 福部の場合は、5歳児は幼稚園と聞いていますが、例えば通勤の関係で福部ではなくて、他の地域の園に入れている場合があると思いますので、そのあたり調べてもらえますか。やはり、幼・小・中一貫にした場合、福部の子は5歳児からみんな一貫校に来てということになるのでしょうか。
- 委 員 福部の総意として要望書が出たわけですが、10年一貫校の熱意というか、盛り上がり、言われるほど熱意を感じられませんでした。幼を含めた一貫校という考え方は非常に斬新で、心を打つものはありましたが、現場に出かけて、保護者や地域の人の意見を聞いてみる必要があるのではと思います。
- 事務局 今おっしゃったのは、幼稚園をくっつけた部分で熱意が少し薄いのではないかと、小・中の一貫校については、いいということですね。
- 委 員 はい。非常に熱意が高いと受け止めておりますが、幼を入れるところは、ある程度は見極める必要があると思います。審議会は、そこまで責任を持たなくてもいいのかも知れませんが、いろいろ問題が出てくるのではないかと思います。
- 委 員 小学校に5歳児を入れたとき、教育効果がどうなるかは、私の知識では分かりません。ですから、地元の熱意とは切り離して、教育の専門家の方から「一貫校にすると、どんな教育効果があるのか」を聞かせていただきたいと思います。
- もう一つは、福部を一貫校にしても、現実には福部の中学生は83人だと南部会長はおっしゃいました。これは、平均すると1学年28名になります。わずか6年間で2割減っていますし、まだ減る感触があるようです。
- そうすると、仮に福部中を統廃合すると、旧鳥取市のどの中学校に編入するのかを教育委員会に教えていただきたい。それを聞かせていただかないと、審議会委員としては答えが出せません。
- 会 長 最寄りの中学校はどこになりますか。
- 事務局 東中と中ノ郷中になりますね。
- 会 長 幼の教育効果については、カリキュラムが小学校のカリキュラムになるわけではありません。空間と教員と子どもの学びが一体になるイメージですから、恐らく連携させても1年生か低学年ぐらいです。ですから、今のように4・3・2のうちの4に付けて5では大き過ぎるので、年長と1年だけ付けて2・3・3・2とか、低学年に付けて3・2・3・2とか、そのあたりが検討課題だと思います。
- 事務局 どの中学校と統合したらといった議論は、教育委員会で行っていません。ですから、教育委員会の見解というものはございません。

教育効果ですが、幼稚園にも幼稚園教育要領があります。ですから、勝手に幼稚園の教育課程を変えることはできません。幼稚園1年間であっても、その要領に従って教育がなされます。それから、小学1年生からは小学校学習指導要領に基づいて6年間の学習をします。中学校の3年間は、中学校学習指導要領があります。つまり、特別な中身を作らないなら、一貫校であっても今の指導要領でいく限り、特に問題ないということです。

だから、幼稚園をくっつけても、1年間で卒園となるわけです。それから、2～7年生の終了時に、小学校卒業の卒業証書が出てきます。そして、8～10年生で中学校の卒業証書が出てきます。

湖南学園も4・3・2というブロックとなっていますが、同じように小学校の卒業証書、中学校の卒業証書が出ます。今のところは、そういう区切りでやっております。

会 長 ちなみに、湖南学園の小の人数、中の人数はどのようになっていますか。福部の方の数は出ていましたが。

委 員 小学校は96名で、中学校は50名です。

会 長 そうすると福部の方が人数的には多いということですね。

事務局 湖南学園は、小規模校転入制度の中で十数名入ってきておられますね。

会 長 その辺が、中学校に小規模転入制度を導入すると、また違ってくる可能性があるところですね。

すなっこの園の現状を聞きたいのですが、年少・年中と年長は運営上離れていると見ていいのですか。それとも、年長の果たす役割があつて、年長に抜けられると園全体の行事や活動に問題があるのでしょうか。

事務局 福部では以前から保育所と幼稚園があり、最後の1年は幼稚園に上げてから、小学校に入学していました。もちろん、保育所にずっといく子も何人かいましたけども、福部村時代から幼稚園という一つの趣を持ってやっていました。

ですから、一貫校の中に幼稚園を付けたのも、歴史的背景があると私は思っています。幼稚園と保育所がくっついて幼稚園になったのは、平成23年だったと思います。最近のことで、幼稚園が離れても問題になることはないと思います。

会 長 ほかのエリアに比べると、年長の位置付けは一貫校に近い形での歴史があつたということですね。

では、鹿野中からその他のエリアまで、今日初めて出てきたところもありますが質問等がありますか。特に南中の問題が出てきましたがどうですか。いわゆる3案の検討をずるずるやるより、校舎増築のことも含めた方がよいではないかということですが。

数字が出ていましたね。平成28年にプレハブ等検討と書いてあります。具体の案がある程度出ていますか。

事務局 教育総務課の担当の方でもいろいろと考えておられますが、現実問題は敷地の面積等から考えて増築は難しいかなと思っています。屋上にという考え方もいただきましたが、特に、平成30年代半ばになって6教室足りないとなると、対応できないと考えています。

会 長 正副会長会の時に、分離新設するかどうかは分からなくても、そのための予算がどのくらいになるか確認した方がよいという意見が出ました。4つの小学校のうちの、地価が安そうなところを購入し、何年後に建てれば最も合理的な予算で建てられるという計算をしないと審議も進まないと思います。審議のために、そういう作業は可能でしょうか。

事務局 校舎の建設費については、仮定で出せると思います。問題なのは、仮に美保南小と倉田小で一つの中学校を作った場合、位置は市街化調整区域に建てるのが妥当と思われませんが、今の都市計画法上、市街化調整区域となると、学校といえども建設するのは非常に難しいのが現実です。それでは、市街化区域内に学校を建てるようなスペースがあるかということ、これもまた非常に厳しいです。あるとしても、相手方もあることです。

中学校の線引きを変えらるゝとして、例えば江山中に行ってくださいとなつて、スクールバスを出すとしても、美保南小だけで300人ぐらゝになります。それを毎日運ぶのは、現実味としてどうなのかと思います。自転車で通学すればというのもありますが、今まで徒歩で通つていたのに、急に自転車通学にという説明でご納得いただけるかという問題もあります。

そもそも南中に愛着がある方に、他の学校に行くことをご了解いただくのは難しいかなと思います。一番ご理解を得られるとすると、分離新設というのが、お金のことは別として、一番可能性として大きいかなと思います。しかし、都市計画の線引きという大きな問題があつて、かなりハードルは高いと思います。

会 長 大胆な話を言えば、中学校を建てていただくために、市街化調整区域を県レベルで変更していただくというのは難しいですか。

事務局 一つの方法論としては可能ですが、現実には難しいと思います。

委 員 調整区域の問題は、地方公共団体の立場で線引きをしているから、そういうことをおっしゃるのであつて、現実には調整区域であつても1万平米でも、2万平米でも農地を潰して工場だろうと自動車学校だろうとやっています。

ですから、中学校を新設するとして、その位置を無理やり市街化区域の狭いところに建てて一極集中にするのは、中山間地と旧市街地の生活のギャップを作る要因になるわけです。

調整区域であつても、そういう視点も含めて、一番適正な位置に学校を建設するべきです。そうでないと、遠くの生徒は、通学のために常に体力的な負担と時間的な負担と危険性を負わされることとなります。もし分離新設が決まれば、議会でも市の執行部も縦割りではなく、協力して進めていくべきだと思います。

委 員 中学校長会での意見は、教室数不足は、校舎を改築したときから分かっていたことではないかということです。しかし、そのことについて、なかなか対応しないままに、今まで来たのが現実です。

改築や新築する際に、学校の生徒数の推移というのは非常に大きな基礎データになると思いますので、仮に今空いていても、こういう見込みがあるとか、今教室を増やさないのは、新しい中学校を作るからだとか、そういう根拠のあるもので、設計して欲しいという意見をよく聞きます。今入るだけのものにしてしまえば、減るのであればいいですけど、増える場合は困るわけです。

会 長 その点も踏まえて、最終答申には入れたいと思つております。それでは、一巡してお聞きしていきたいと思つています。

- 委員 中心市街地エリアで、隣接校でのゆるやかな学校選択制というのが挙がっています。柔軟に「こっちの学校に行きたい人は行けるよ」ということなのかなとも思ったりします。なかなか線が引けないところだと思うのですが「ゆるやかな」という状況というのは、どんな想定なのか、詳しく教えていただければと思います。
- 会長 これはまだ具体的な案はないのですが、例えば東京の品川区で選択制をとっています。わりと競争的な意味合いとか、進学に有利だという意味合いで、ある学校に集中し、ある学校は逆に小さくなってしまいう結果も出てきているようです。
そうではなく、連携が進むような意味合いでの学校連携制のイメージです。そこで「選択」という文字の前に「ゆるやかな」がついているのは、適切な呼称も含めてこれからの研究課題ということですか。事務局としてはどうでしょうか。
- 事務局 前回に確認されたこととして、「中心市街地において小小連携というあたりから進めていってはどうでしょう」という指摘があったと思います。つまり、小小を連携していく中で、例えば北中校区でしたら、遷喬、久松、城北と。その中で、遷喬、久松の校区エリアをちょっと合わせて、その中だったら考えていってもいいのではないかな、こんな動きも将来的にはできはしないかなと。
そういう中で、例えば、偏った男女数の問題なんかも解消できるのかなと思っています。ただ、具体的な案があるわけではなく、まず小小連携を少し進めていく中で、こういうことも考えていってはどうかということ、挙げさせていただいてるとご理解ください。
- 委員 千代川以西が自分の出身の城北小校区に入っているのですが、先日、各学校の新しい会長さんに要望を出してもらった時に、世紀小の会長さんから「学校の校区を何とかしてほしい」という要望が出ていました。ですから、もう少し正式な形で具体的な動きをしないといけないのかなと感じました。
- 委員 全体的に考えて、これだけテーマがある中で、やはり優先順位をつけながらやっていくべきと感じました。会長さんがおっしゃられたとおり、できるところから答申を出すのがベターかなと思いました。これについて全く異存はありません。
- 委員 南中の問題については、一番どういう形が現実的なのか、可能性を探りながら決めていくことになると思います。予測の数を出していただいているので、現状から増築する可能性があるのかどうか。本当に分離新設となると、位置ということからも、大きな問題になってくるのかなとも思いました。
中心市街地のエリアで、学校選択制ということになると、やはりそれぞれの学校の特性であるとか、選択するからには何か違いを見つけて保護者は選ぶことになると思います。市街地であればどこでも歩いて行ける範囲に学校はありますので、そのあたりで、本当に適切な規模に落ち着いてくれればいいのですが、そのあたりがどうなのかと思います。特に将来推移などを見ていると、あまり悠長に構えておられないのかなということを感じています。
- 委員 ゆるやかな学校選択制についてですが、自治会の中でも今の線引きの複雑なところはある程度決めてもらって、選択制で選べるようにした方がいいという会長はかなりいらっしゃいます。
校区を変えたから学校を変わらなさいと言ってしまっただけでは、なかなか話が進まないだろうということで、これはいいことだと思っています。

会 長 学校選択制は、調整区域を設けて、そこだったらどちらでも行けるという発想もありますし、両方の校区を含めて小小連携をどう進めるかみたいな形で考えてみるという視点もあります。

今回は具体的なイメージがないので、9月までにそれぞれの委員さんが少しイメージを膨らませてきていただければと思います。

委 員 鹿野中、江山中。これは、いずれも対策を講じなければならないのですが、地元の検討組織の考えがまとまるまで待つ形でいかざるをえないと思います。

それから南中の場合、これは結論を急ぐべきです。プレハブという案もありましたが、既成の校舎を耐震している状況ですから、好ましくありません。プレハブの校舎は、もし地震があればひとたまりもありません。早急に分離を考える方向で考えるべきです。市街化調整区域云々がありましたが、法律はどうでも変えることはできますから、いい子を育てるためには、多少のことは乗り越えるべきです。

湖山小が分離したのも、南中が抱えている生徒の数の増加も、行政が考えるよりも人口の集積が早かったわけです。マンションができて所帯が増え、あるいは宅地化が進んで、民間の進出がここ数年高まっておりますので、そういう地域にはそれなりの判断をするべきです。

将来を見込んでというのは、なかなかできるものではありません。行政がいくら考えても、民間サイドで過疎化が進む場合もあるし、住宅が密集し人口の集積が急速に来る場合もあり、そう簡単に先を見越すことはできないと思います。今、手遅れになっている南中の大規模化を何とか解消するため、分離新設の方に進むべきであると強く思います。

会 長 今は3案併記になっていますけど、議論が進んで、バス輸送は実現不可能となれば、消えていく項目になります。最終的に9月の中間まとめで、学校の分離新設を軸に検討を進めるという表現もできるかも知れませんが詰めていきたいと思えます。

鹿野については、鹿野の教育を考える会は1年以内に結論を出したいということでしたので、来年の今頃には鹿野の考える会から要望が上がってくるのではないかなという予測もあります。

事務局 先ほど申し上げた都市計画法上の問題は、都市計画サイドにも相談しておりますし、開発行為の担当である建築指導課も確認して、法的にどうなのかというようなことも頼んでおります。県の都市計画審議会や市の審議会にも探ってみてくれないかと頼んでおります。絶対にだめなのかどうなのか、何かいい案はないかというのは、働き掛けているということをお伝えしておきます。

委 員 用地買収が円滑に進むように、地権者との話も進めていくことをお願いします。

事務局 市街化調整区域に学校が建たないと言われてしまうと、市街化区域の線引きを変える、広げるという手段もあるのですけれども、それが本当にできるかどうかというあたりがポイントです。

補足ですが、プレハブは構造上、耐震基準を満たしていますので、地震が起きたからといって、潰れることはありませんので、誤解がないようお願いいたします。

委 員 優先順位の問題もありますが、特に南中の問題については早急に取り組むことが必要だと考えています。

委 員 これは余談ですが、今のプレハブは、夏は冷房、冬は暖房完備で快適だと生徒は

喜んでいきます。

委員 江山中や千代川以西のところに「検討組織の立ち上げ」が書いてありますけれども、これは具体的にどういうものを立ち上げるのでしょうか。

会長 江山中と千代川以西のテーマに移ります。江山中の方は、働きかけは始めたということですが、千代川以西の方はまだ目途無しということでしょうか。それとも、PTAサイドで何かありますでしょうか。

事務局 千代川以西のエリアにつきましては、公民館が分断しているという状況がありまして、地域という切り口からは難しいところもあると考えています。ですから、神戸、江山と同じように、まずは保護者の方に何とかそういった話をする機会を始めてもらって、それから地域の方に入っていただきたいという思いです。

委員 ここで審議いただく場合、千代川以西の明治、豊実、松保、大正、東郷、それに千代水地区を含めて、いわゆる高草中校区と千代水地区、この一円のものを何とかしないといけないという現状であります。

ですから、審議会での検討のたたき台になる資料を作らないと、ここでいろいろと意見交換をしても、文章も無い図面もありません。この広い地域の中の各町内会別の小学生と中学生の人数なども資料として出さないと、恐らく委員の皆さんも、検討のしようがないと思います。

事務局として各地域に意見を求めていく、あるいは最終的にはアンケートを取るのでしょうか、審議会が議論するためのたたき台になる資料を作ることと、その検討メンバーを決めることが必要だと思います。

会長 委員の中には、それぞれエリアに関わりを持っている方がいます。そういう方にエリアごとに力を発揮していただく場面も必要かなと思っています。

委員 個人的なことになるかもしれませんが、明治小に学校評議員会があり、その関係で参観日に2回ほど行きました。その際、明治小と東郷小が合同学習ということをしていると聞きました。1年生は毎週水曜日になっています。今週は明治小が東郷小に行き、次の週は東郷小が明治小に行つてというようにしているようです。

また、3、4年生は別の曜日にしています。参観日でそれを見て、これが小小連携という教育かなと思いました。これは、明治小の入学生が1人だったという関係がございまして、1人で学ぶのが毎日というのは大変なので、別の小学校と連携する教育の仕方や、複式ではないですが、1、2年の合同学習とか、5・6年の合同学習とか、場合によっては4・5年の合同学習とかいいながら、上下のつながりしながら教育をしている状況を見て、小規模校もいいところもあると思いました。

だんだんと競争心が無くなってきているといえ、そうかも知れませんが、児童数が少ないと先生が質問したら、全員がしゃべらないといけません。手を挙げる子もいますが、挙げない子にも全員聞くので、そういう点でいいところもあるし、小小連携で競争だけでなく、友達作りもしています。そういう環境で今の小規模校も努力してくださっていることを考えたら、小規模校転入制度を使って来てもらえるPRを学校やPTAや地域がもっと頑張っていこうというのが今の状況です。

高草中校区の4つの小学校は、実際には世紀小がどんとあって、大正小、東郷小、明治小は少ないですね。そういうことから考えたら、中学校に行くまでに小学校が連携をしていけば、中学校に入学した段階でスムーズに友達関係もできることになります。以前会長さんが言われたように、中学校区での教育を考える会を立ち上げていくことが、これから必要なんじゃないかなと思いました。

会 長 「森のようちえん」は、明治の校区でどんな感じで受け入れられて、地域との関係はいかがですか。

委 員 場所は明治地区ではなく豊実地区の宮谷になります。その子たちが、明治小の梅祭りの時に来て、一緒に行動するといった形で、何かの行事の時に来てくれています。子どもたちがそのまま明治小に来てくれたらいいのにね、とそれなりに評価していますし、いいことだと思っています。

会 長 魅力ある学校への取り組みによって、いろいろな新しい「学校のカタチ」が語れるようになると思います。

委 員 南中のことになってしまいますが、本当に将来、教室が足りないとなった時、その対象になれる子どもさんって、この時点でこうなりますということを、ある程度早い時期に伝えてあげないといけないと思います。

他の学校でも、そういう情報を伝えてあげないといけないと思います。学校の統合が決まった時に「えっ、そんなの知らなかった」と言われる保護者もいるでしょうし、「じゃ、どうですか」と言われても、すぐに答えが出せない保護者もたくさんいると思います。

どういう形になるのかが決まっていけないのに、そんなことは言えないということもあるかも知れませんが、「こういうことが考えられている」ということは、少しずつでも、年代が下の方にも伝えていってほしいなと思いました。

副会長 千代水以西エリアと中心市街地エリアの問題は、私の大きな研究テーマです。ものすごく長い間残ってきている問題で、あとの5項目は、最近起こってきた問題です。この2つのエリアは子どもの教育を考えた形での残りじゃない気がします。何か他の要素が加わっていると思います。

本当に子どものことを考えているなら、ある程度方向性を持って解決していかないと、だめなんじゃないかなとも思います。千代水西エリアの問題は、50年かかっています。50年かかってもまだ解決できていないのです。

中心市街地も適正配置の問題で、人数が減っている市街地の学校数を減らすのも、大きな課題だと思います。何故かという、小規模校を作らないためです。ある程度適正規模の学校を作るべきだと思います。分離の時は割と簡単にできますけれども、統合になるとできない。その方向性をどうしたら見つけられるかということで、隣接校のゆるやかな学校選択制度というのも一つの案だと思います。

千代川以西エリアに関しましては、非常に複雑です。小学校の統合の時に、地域のコミュニティを分断しているところがあると思います。その辺のことを考慮した上で、どうしたらこれを解決できるのかという方向性を出さないと、この2つの問題はずっと尾を引いていくと思います。どのような形でやったらいいかという方向性を、導き出して行きたいというのが私の気持ちです。

会 長 ありがとうございます。次回はもっと踏み込んだ議論になりますので、9月までに、全体でもいいですし、ご関心の高いところについてでもいいですし、こういうような表記にした方がいいとか、特に検討課題と書いているところがテーマですので、そこのところについてご意見があれば、寄せていただきたいと思います。その上で、今日出た素案に対して委員の皆さんからの意見を加えた上で9月に審議し、10月に中間まとめということにしたいと思います。

事務局には、9月の日程調整と福部関係の答申案、委員さんから出てきた意見を併記した形の中間まとめの案、一番右側の検討課題のところ、委員さんから出た

いろいろな意見を載せておいてください。
それでは、司会を事務局にお返しします。

事務局 ご提案ですが、福部の答申を出す前提として、実際に福部地域に出掛けて行って懇談する機会を持てば、その熱意を肌で感じるような設定ができる気がします。必ずしも全員でなくてもいいとは思いますが、どうでしょうか。

会 長 そういう機会があれば積極的なことではないでしょうか。答申を出してからでは内容に盛り込めませんので、9月までに出かけて行って意見交換をする場があればと思います。できれば「すなっこ園」など、実際の施設も見てみたいと思います。では、日程調整等をしていただくということでもよろしくをお願いします。

事務局 本日も長時間、3時間審議をいただきました。本当にありがとうございました。
また、次回に向けての事務局としてみなさんの声をしっかり受け取り、特に審議を可能にする資料をきちんと検討し、準備していきたいと思います。一応次回は9月に予定をしているということで、また皆様のお力をお借りすることになりますけれど、よろしく願いいたします。
では、以上を持ちまして第5回の鳥取市校区審議会を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。

この議事録は、審議会の決定事項等と相違ないことを証明する。

平成 年 月 日

会 長 渡 部 昭 男

議事録署名委員

署名委員 渡 辺 勘治郎

署名委員 片 山 敬 子